自然保育推進事業　活動報告書

kusunoki

1、団体名　　認定こども園　くすの木

2、今年の活動概要

①環境構成に関すること（例：園庭づくり，フィールド整備 など）

認定こども園　くすの木は、古川を挟む、西原（乳児園舎）と東原（幼児園舎）で構成されています。
園の周りにある街全体が遊び環境で、園庭を持っていない園ではありますが、遊び場を地域全体を使いながら遊んでいます。また、保育士は、子どもたちが、自ら遊ぶ生活を支える役割を意識し、のびのびと子どもたちが自己表現し、日々の園生活を送れるように努めています。

子どもたちは、興味や関心に応じて、行きたい場所や遊びたいことがあります。
幼児のお部屋では朝の集いで、今日はどこに行って、どんなことをしたいと話を出し合いながら、行き先を決定しています。
話は、最初のうち、ばらばら。それぞれの想いを出し合っていますが、友達の話を聞いているうちに、
気持ちが変わったり、さらに自分の行きたい場所への想いが強まったりして、徐々に話がまとまることもあるますし、時には折り合いをつけることもあります。そして、同じお部屋の友達と、同じ場所に遊びに行きます。遊びに出かける先も子どもたちにとっては楽しみなのですが、毎日園の外に出て行くことで、道中のそのものが子どもたちにとって、友達とふれあい会話を楽しむ時間。おしゃべりしながら歩く道の楽しみは格別のようです。

園の中には、ウッドデッキスペースがあり、実のなる木を育て、また、季節の野菜や、植物などを子どもたちが植える、収穫する、食べるなどして日々の生活の空間環境として存在しています。
また、ウッドデッキスペースに、室内のおままごとコーナーのキッチンや、テーブルなどを運んで、気持ちよい半外空間で遊んだり、絵を描いたりすることもしています。
ウッドデッキの植物をテーブルに飾ってみたり、おままごとに使う、転がって空を眺める、風に吹かれながら絵本を読むなど、この曖昧でトランスフォームできる場所をいろいろな使い方をしながら子どもたちが遊びを展開しています。夏には、ウッドデッキはプールや水遊びの場所に変わります。
植物への水やりもしながら、自分も水をかぶる、おもいきりダイナミックに泳ぐ、といった活動になっていきます。また、子どもたちの手によって片付けや準備なども行いやすいサイズ感のため、積極的に子どもたちが自分の遊び場を自分たちで作っていくという感覚が身についていっているように感じます。
もちろん水遊びの場所の危機管理は大事ですが、異年齢保育をおこなっていることもあり、年長児がしっかり先導しながら、危険について知らせたり安全な方法をみせたりする様子もあります。
大人はそれらを見守りながら、安全で楽しい場づくりの必要に応じた動きをしていきます。

土手、水路、公園、アストラムラインの駅、川の合流するところなど、いろいろなところで、日々、いろいろな状況を体験し、季節や、時間、天候によって変化する自然界の中で生活していきます。
台風などのくる前にも、土手などで寝転び、雲の流れの勢いを眺めるようなことができるのも、園のすぐ近くに川がある良さだと思います。

また園バスを使って、近くの山などに山遊びに出かけることも定期的に行なっております。
少人数、異年齢保育の中で活動をおこなっていく中で、街の人とのふれあいや、関わりが否応なしに起こり、地域の方に、野菜をいただいたり、畑を提供していただいたりして、芋の苗植えなどもさせていただいています。計画的にというよりも、季節や気象状況や、子どもたちの様子に応じた活動を主として展開していきました。

建築物、周囲の自然環境、園バスといった道具を用いながら、子どもたちの日々の生活が、五感をめいいっぱい使い、感性豊かなものになるよう、発見、活用していっております。

植物に興味のある園児が、散歩で見つけた植物を持ち帰り図鑑づくり。

自然の中にみつけた「色」をテーマに絵を描いた子ども。～きいろあつめ～

植物だけでなく、街のマンホールに興味を持って、写真を撮ったり、切り貼りしたりする姿も。

園児たちがそれぞれ描いたものや作った物がお部屋に増えてきて、掲示していると、街の植物マップに。
「作りたい！」と思った時に、できる環境づくり。
身近な素材、道具、いつでも使える状態が大事。
子どもたちなりに、わかりやすいように、サインの工夫などが見られており、子どもたちのアウトプットから街の中のいろんな看板などもよくみていることを感じるひとこま。

nishihara　higashihara

お部屋で子どもたちに共通の「ふしぎ！」が出てきた頃、保育士が、集いなどの場を通して、みんなで一緒に、「ふしぎ！」に注目して、実験遊びなどに発展することもある。
→写真は、土手の桑の実を使った実験。

「桑の実にあれを混ぜたらどうなる？」「これはどうなる？」子どもたちの言葉から、実験スタート！どうなるか予測を立てて、みんなに伝えたり、胸に秘めたり。
そして結果をみんなで覗き込む！
予測と合っていたり。違っていたり。
「どうしてそうなったのかな？」
「ふしぎだね！」をみんなで共有。
他者との分かち合いによって、次々と興味が膨らんでいきますね。

興味関心、遊びがあちこちに広がり、いろんな植物で試してみたい子ども、いろんな色が出ることを楽しむ子ども、匂いに興味を持つ子ども。葉っぱの仕組みや、葉っぱの模様に興味を持つ子ども。
ジュースやさんがお部屋の中にオープン♪
やりとり遊びにも発展。
興味関心が広がっていくには
ゆったりとした時間も環境のひとつ。

実験結果をおいておくと
対話が生まれる。いろんな見方や考え方が入り混ざる。

いつでも使える台やカップなどがあるとお店が始まる。

顕微鏡でのぞくと！
研究者の気分に。
「うわぁ！なんだこれー！」
レンズの中に、みたことのない世界が広がっている。

②遊びの事例や，子どもの育ちに関すること
（例：自然物を活用した玩具づくり，自然を活用した遊び など）

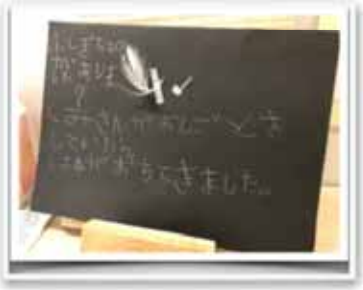
◉鳥から
園の玄関付近に毎年、燕が巣を作り、子育てを行ったり、餌を親鳥からもらうひなの姿を見守ってきた子どもたち。巣立ちの日の様子を偶然体験し、ますます、鳥に興味を持ちました。
　燕だけでなく、お散歩などで出会う鳥や図鑑の中にでてくる鳥、自分の中のイメージの世界で鳥になりきって友達と鳥語でコミュニケーションを持つ子どもなど、それぞれの世界観の中で、交わりあいながら、鳥を通じて、友達との関わりを深めたり、自分の想いを表現する楽しさを味わったりしました。
また、身近な素材を使って、「わたし、ぼくのぴーちゃん」づくりを行い、針と糸を使って履けなくなった靴下などを利用して作る子ども、はさみやボンドを使って作る子どもなど、いろいろな道具を使い、それぞれの方法で、鳥づくりにつながりました。

子どもたちの
興味関心から

鳥の巣ってどんなのかな？

絵に描いた家や、
木片で作った家
段ボールで作った家など。
それぞれのイメージ。

園内の他のお部屋の保育士も、
子どもたちの興味関心ごとから、自分も興味が深まり
絵本作家さんの鳥の巣ワークショップへ参加。



鳥の羽根ってどんなのかな？

散歩で拾った鳥の羽根、
偶然舞ってきた鳥の羽根、
図鑑でみる鳥の写真など、
直接的な体験や、情報から
自分の中でイメージを広げて
羽根を描いたよ。

nishihara　higashihara

びーちゃんの歌を作ったよ！と。
歌っているものを音にしてみると♪
ウクレレやピアノで演奏。それに合わせて、踊りを考えたよ。
「発表会がしたいな！」
「そうだ！おうちの人へ招待状を作って、招待状をだそう！」

楽しんでいることを、大好きな人と分かち合いたい気持ちは人の本能。大人も子どももしっかりコミュニケーション！自己表現、自己開示が豊かな人間関係に。

一人一人の興味関心から、いろんな方向に遊びや生活が広がって、
混ざり合って遊び学ぶ子どもたち。
のびのびとした時間や空間の中で、感性をめいいっぱい使い、いろんなことを感じ、考え作り出す遊び。
友達とのコミュニケーションが「鳥」という世界から、とても豊かになりました。

③その他，自然体験活動の実施にあたって工夫したこと
（職員の資質向上の取組，地域との関わり，保護者理解に向けた取組など）

職員の質向上や工夫というかしこまった形での取り組みはありませんが、子どもたちの興味関心ごと、子どもたちが会話している楽しそうな声をしっかり聞き、それらをスタッフ同士が一緒に楽しみながら、共感したり共有したりすることを大切にしていきました。

それぞれのお部屋の子どもたちが、どんなことに興味を持って、楽しんでいるのか、ということを、どのお部屋のスタッフも知っている、という状況の中で、大人同士も、自然と子どもたちの世界に興味を持って、保育を考えていくことや、情報の共有をしあうことで、保育を展開していったように感じます。

地域の豊かな川、木々、見守る人たちのさまざまな年齢層や、背景の違いなどから子どもたちが、いろいろな方の影響を与えていただき、日々の園生活を楽しみ、自然の中でのびのびと過ごすことができています。保護者様も、園の保育のドキュメンテーションや、子どもたちから聞く園での話、送り迎えの際のスタッフとのコミュニケーション、参加保育などを通して、園の活動に興味や関心を寄せてくださり、参加保育などを通して、自然保育の気持ちよさや、子どもの育ちへの大切さをじんわりと感じられているように思います。来年度も、子どもたちの活動が豊かに繰り広げられるよう、見たり聞いたりしながら、
スタッフ同士も学びあい、楽しみ、自然の恩恵を受けながら子どもたちの日々の生活が豊かなものになるよう、努めてまいります。　　（記　園長　さかい　くみこ）

nishihara　higashihara